

1. 経営成績・財政状態に関する分析

(1) 経営成績に関する分析

①当期の経営成績

全般的状況

当期の経済情勢は、米国では緩やかな回復が続いたものの、欧州財政危機への不安が世界経済に影響を及ぼし、アジアでも中国をはじめとして景気の拡大テンポが鈍化するなど、世界経済は減速感が広がりました。一方国内経済は、復興需要等を背景とする持ち直しの動きは見られたものの、為替の変動や海外景気の減速など、不透明な環境が続きました。

このような状況の下、当社グループは、当期を最終年度とする3ヵ年の中期経営計画「ステージアップ2012ー新たな挑戦」の基本方針である「持続的成長を可能にする収益基盤の確立」「財務構造改革の継続」「地球環境問題への対応と貢献」に基づき、各事業課題の解決に向け、取り組んでまいりました。

この結果、当社グループの連結売上高は前期に比べ126億3千1百万円減の6,260億2千2百万円、連結営業利益は160億4千4百万円減の299億6千2百万円、連結経常利益は127億6千3百万円減の280億4千5百万円、連結当期純利益は147億4百万円減の82億6千5百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益
当期	6,260億円	299億円	280億円	82億円
前期	6,386億円	460億円	408億円	229億円
増減率	△2.0%	△34.9%	△31.3%	△64.0%

また、当社単独では、売上高は前期に比べ18億6千5百万円減の3,115億8千5百万円、営業利益は112億4千8百万円減の137億6千4百万円、経常利益は4億5千3百万円減の216億1千8百万円、当期純利益は10億7千3百万円減の103億7百万円となりました。

セグメント別状況

セグメント別の概況は以下のとおりです。

化成品・樹脂セグメント

ナイロン原料のカプロラクタムは、世界的な景気の減速や中国市場での他社新設備稼働開始に伴う需給緩和により市況が低迷する一方で、原料のベンゼン価格が高騰したため、スプレッド（製品と原料の値差）は好調だった前期に比べ大幅に縮小し、当セグメントの減益の主因となりました。ポリブタジエン（合成ゴム）も中国需要低迷の影響を受け、出荷は前期を下回りました。一方、ナイロン樹脂は食品包装フィルム用途を中心として堅調で、工業薬品はアンモニア製品が好調に推移しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ116億5千8百万円減の2,193億6千8百万円、連結営業利益は179億円減の50億8千8百万円となりました。

なお、カプロラクタム事業につきましては、事業全体の競争力強化のため、堺工場でのカプロラクタム生産を平成26年3月末をもって停止することを決定しました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当期	2,193億円	50億円
前期	2,310億円	229億円
増減率	△5.0%	△77.9%

機能品・ファインセグメント

リチウムイオン電池用の電池材料については、セパレーターの出荷は車載需要の立ち上がりもあり堅調でしたが、電解液の出荷は国内民生需要低迷の影響を受け低調でした。電子情報材料分野での需要回復遅れにより、薄型テレビ向けフィルムを中心とするポリイミドの出荷も伸び悩み、太陽電池生産部材向けを中心とするセラミックスなど、多くの機能性材料で出荷が低調でした。ファインケミカル製品は、総じて市況低迷の影響を受けました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ32億5千7百万円減の611億1千1百万円、連結営業利益は42億1千4百万円減の12億3千6百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当期	611億円	12億円
前期	643億円	54億円
増減率	△5.1%	△77.3%

医薬セグメント

自社医薬品の抗アレルギー剤、抗血小板剤の原体と、受託医薬品の原体・中間体の販売は伸長し、ロイヤルティ収入も増加しましたが、自社医薬品の血圧降下剤の原体販売数量は前期を下回りました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ2億6千6百万円増の114億5千2百万円、連結営業利益は3億6百万円減の34億2千3百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当期	114億円	34億円
前期	111億円	37億円
増減率	2.4%	△8.2%

建設資材セグメント

セメント・生コン及び建材製品の出荷は、マンション・住宅着工や企業の設備投資が持ち直すとともに、復興需要も本格化してきたことから、前期を上回りました。アジアを中心とする旺盛な海外需要により輸出採算が好転し、各種廃棄物の原燃料へのリサイクル利用も拡大しました。カルシア・マグネシア製品の出荷は、自家発電設備の排煙脱硫向け、震災復興用途向けは堅調でしたが、鉄鋼、電子情報材料向け需要が低迷したため、全体では販売が低調でした。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ7億9千1百万円減の2,083億6千4百万円、連結営業利益は28億2千1百万円増の114億9千4百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当期	2,083億円	114億円
前期	2,091億円	86億円
増減率	△0.4%	32.5%

機械・金属成形セグメント

自動車産業向けを中心とする成形機は、新機種の市場への浸透が進み、受注は新興国・北米向けを中心に増加しました。堅型ミルや運搬機等の産業機械は、国内外メーカーとの価格競争の激化等により受注では厳しい状況が続きましたが、足元の出荷は堅調でした。製鋼品は、市場の需要低迷及び年度前半の円高の影響を受け、出荷は低調でした。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ12億6千5百万円減の713億1千万円、連結営業利益は6億2百万円増の36億8千8百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当期	713億円	36億円
前期	725億円	30億円
増減率	△1.7%	19.5%

エネルギー・環境セグメント

石炭事業は、販売炭の売上数量、コールセンター（石炭中継基地）の取扱い数量とも、化学、製紙会社向けを中心に好調でした。電力事業は、燃料である石炭価格の下落及び電力需給逼迫に伴う売電価格上昇により採算が改善したことに加えて、IPP発電所にかかる補修費が前期に比べ減少しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ62億5千1百万円増の687億6千9百万円、連結営業利益は26億1百万円増の59億5千9百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当期	687億円	59億円
前期	625億円	33億円
増減率	10.0%	77.5%

その他のセグメント

その他の連結売上高は前期に比べ6億1千7百万円減の252億9千4百万円、連結営業利益は3百万円増の10億3千7百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当期	252億円	10億円
前期	259億円	10億円
増減率	△2.4%	0.3%

当期に実施した主な施策など

化成品・樹脂セグメント

- ◆タイ国のカプロラクタムやナイロン樹脂の製造・販売子会社であるウベ・ケミカルズ・アジア社において、タイ国 I R P C社と昨年5月に資本提携を行いました。
- ◆インドにおけるグループ製品の販売・市場開拓の拠点として、昨年7月、インド・ハリアナ州に「ウベ・インダストリーズ・インド社」を設立しました。
- ◆炭酸ガスの有効利用と排出削減及び液化炭酸の需要増に対応するため、宇部ケミカル工場では昨年7月に液化炭酸製造設備の増強に着手しました。
- ◆千葉石油化学工場の合成ゴム製造設備増強工事（第1ステップ、年産1万5千トン）が昨年8月に完工しました。
- ◆欧州や北米での高付加価値ナイロンの需要増大に対応するため、スペインの子会社であるウベ・エンジニアリング・プラスチックス社にて年産1万トンのナイロン6製造設備を増設することを昨年10月に決定しました。
- ◆本年2月、堺工場におけるカプロラクタム生産を来年3月末をもって停止することを決定しました。
- ◆本年2月、フジサンケイグループが主催する「第22回地球環境大賞」において、「『調色樹脂リサイクル技術』による再生プラスチックの有効利用」が高く評価され、「日本経済団体連合会会長賞」を受賞しました。
- ◆アジア地域でのポリブタジエンゴム（BR）の需要拡大に対応するため、ロッテケミカル（韓国）、ロッテケミカルタイタンホールディング（マレーシア）、三菱商事（株）と、本年3月、マレーシア・ジョホール州にBR製造・販売の合弁会社を設立しました。

機能品・ファインセグメント

- ◆車載用リチウムイオン二次電池向けなどでの需要増大に対応するため、昨年4月、堺工場では新たに機能膜（セパレーター）8期製造設備の建設に着手しました。
- ◆宇部ケミカル工場の有機金属化合物（MO）第二工場が昨年8月に完工しました。

建設資材セグメント

- ◆昨年6月、宇部興産海運（株）が運行するスーパーエコシップ「興山丸」が、（社）日本物流団体連合会から「第13回物流環境大賞」を受賞しました。
- ◆昨年5月、（株）関西宇部 堺工場は環境ラベル（メビウスループマーク）を表示した生コンを全国で初めて納入しました。
- ◆廃棄物処理によるセメント生産効率の低下を改善するための下水汚泥乾燥設備が、伊佐セメント工場では本年1月より営業運転を開始しました。
- ◆本年3月、伊佐セメント工場において金山台石灰石鉱山の開発に本格着手しました。

機械・金属成形セグメント

- ◆宇部興産機械（株）は、東洋機械金属（株）と昨年4月、ダイカストマシンの生産において提携することで合意し、昨年9月には電動ダイカストマシンの開発協力についても合意しました。
- ◆本年3月、宇部興産機械（株）と、同社子会社である宇部テクノエンジ（株）が、本年10月1日付けで合併することを決定しました。

エネルギー・環境セグメント

- ◆当社は、昭和シェル石油（株）と太陽光発電（メガソーラー）による売電事業を共同で実施することに合意し、本年3月に事業運営会社「ユーエスパワー（株）」を設立しました。

②次期の見通し

今後の経済情勢につきましては、引き続き新興国の経済成長が期待されるもののそのテンポは鈍化しており、先進国においても米国では景気回復傾向にあるものの、欧州財政危機や米国財政問題などにより世界経済は依然景気の下振れ懸念が拭えない状況です。国内経済においては、東日本大震災からの復興需要、円高是正に伴う輸出環境の改善等が見込まれ、景気は持ち直しの動きが見られるものの、海外景気の下振れリスクや、電力価格の上昇、原燃料価格や為替等の先行き不透明な要因もありますことから、事業環境は予断を許さない厳しい先行きが予想されます。こうした情勢を踏まえ、次期の業績見通しについては、平成25年4月から平成26年3月までの為替水準を1ドル＝95円、国産ナフサ1kl＝64,700円と想定し、次のとおり予想しております。

連結売上高は、化成品・樹脂セグメント及び機能品・ファインセグメントでの販売数量増による増収等により、6,750億円と予想しております。連結営業利益は、化成品・樹脂セグメント、機能品・ファインセグメント及び建設資材セグメントにおいて販売数量増等による増益が見込まれるため、当期を上回る340億円と予想しております。連結経常利益は285億円、連結当期純利益は当期に比べ特別損益の改善等を見込み145億円とそれぞれ予想しております。

項目	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益
平成26年3月期	6,750億円	340億円	285億円	145億円
平成25年3月期	6,260億円	299億円	280億円	82億円
増減率	7.8%	13.5%	1.6%	75.4%

セグメント別連結売上高

項目	化成品・樹脂	機能品・ファイン	医薬	建設資材	機械・金属成形	エネルギー・環境	その他	セグメント間の内部売上高消去
平成26年3月期	2,510億円	740億円	100億円	2,120億円	760億円	655億円	260億円	△395億円
平成25年3月期	2,193億円	611億円	114億円	2,083億円	713億円	687億円	252億円	△396億円
増減率	14.4%	21.1%	△12.7%	1.7%	6.6%	△4.8%	2.8%	—

セグメント別連結営業利益

項目	化成品・樹脂	機能品・ファイン	医薬	建設資材	機械・金属成形	エネルギー・環境	その他	調整額(注)
平成26年3月期	70億円	45億円	20億円	130億円	40億円	40億円	10億円	△15億円
平成25年3月期	50億円	12億円	34億円	114億円	36億円	59億円	10億円	△19億円
増減率	37.6%	264.1%	△41.6%	13.1%	8.5%	△32.9%	△3.6%	—

(注) 調整額は、各セグメントに配分していない全社費用(各セグメントに帰属しない一般管理費等)及びセグメント間取引消去額の合計額です。